

神奈川異グ連の活動状況を伝える機関紙 <第40号>

かながわ異グ連ニュース

発行：神奈川県異業種グループ連絡会議 事務局長 芝 忠

〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センター5F

TEL045-633-5142 FAX045-633-5194

Email:zan25564@nifty.com http://www.kanagawa-iguren.com

2006年の初頭において

<中小企業、行政、財団等の交流拠点—かながわ異グ連事務局>

芝 統括事務局長

昨年4月、**異グ連の専用事務局**を創立21年目にして初めて県と財団(財神奈川中小企業センター)の配慮で確保出来ました。事務局の活用方法を単なる事務局室とするのではなく、**中小企業者や行政・財団職員等の交流拠点**として位置づけました。幸い月2回の「尾上町サロン—通称:金曜サロン」も順調に展開し、様々な人が遊びに来てくれます。横浜・川崎・横須賀の3サロンのようなテーマ制による話題提供は特に決まっていますが、自由な意見交換を2~3時間程楽しめます。常連の買い出し部隊も整備?されてきました。全国的に見てもこうした自由な雰囲気での交流拠点を行政関連施設の中で設定している例は非常に少なく、またあったとしても極めて形式的で利用されていないと言っても過言ではありません。それだけ「交流重視」と言っても実践的には言葉だけに留まっているケースが多いというわけです。私はあらゆる情報交換の方式は、即ち交流活動だという位置づけで永い間活動してきました。従ってアルメニアの研修生もすっかり覚えた「飲コミュニケーション」も情報交換の重要な「場」です。飲めるか、飲めないかが重要ではなく、そうした雰囲気の中で楽しく情報交換が出来るかが大切です。年賀状も人脈の確認という側面があります。

<2006年の課題>

さて本年は、異グ連の財政確立が重要な仕事になります。会員の増強と、受託事業の開発、プロジェクト活動による成果物の確保等々、いい意味での「成果第一主義」を実践して見たいと思っています。事業展開テーマは、小田原サロンの開設、韓国京畿道交流、内藤財団との事業提携、航空宇宙関連事業の大飛躍、アルメニア研修その他のJICA連携、懸案の異業種交流県大会の開催など目白押しです。今年もどうぞよろしくお願いします。

産学官交流サロンのコーナー

第14回よこはまサロン報告

昨年の締めくくりとしてマーケティングを取り上げました。「企業成長への処方箋~マーケティングマインドの育成とコラボレーション態勢の確立」を横浜商科大学経営学部・宮原義友教授にスピーチ頂き、異業種交流とマーケティングについて意見交換を行いました。

お問い合わせ:045-633-5142

担当幹事(芝、池谷 杉本)

045-633-5194idea-info@ideabank.or.jp

横浜サロン代表幹事 河津明男

第12回かわさきサロン報告

昨年20周年を迎えた異業種交流グループ「ハイテクリバー」の牧野昭三郎会長(株)日本セレン社長)に、新たなチャレンジ(協同組合構想)を紹介頂き、IT産業を中心とした研究開発型集積地としての川崎市の特徴を活かした企業間連携・新商品開発等の情報交換を行いました。

お問い合わせ:045-633-5142

担当幹事(芝、田中、小野川)

メール:s-tanaka@saturn.dti.ne.jp

川崎サロン代表幹事 田中繁夫

第12回よこすかサロン案内

新年サロンは「**切迫する巨大地震に対する木造住宅の耐震対策**」というテーマで(有)ドウイングリハウス代表の落合弘明氏に問題提起をしていただきます。

三浦半島には古い活断層が存在しています。木造住宅の防災耐震について皆さんで情報交換をしたいと思います。

日時:1月19日(木)18:00~

場所:神奈川新聞社横須賀支社5F

問合せ等:TEL 045-633-5142

横須賀サロン代表幹事 八幡敬和

NPO 産業クラスター研究会

鶴野省三 046-836-6785

尾上町サロン(毎月第一、第三金曜開催中) やってます!!はやってます!!

開催日:毎月第一・第三金曜日pm5:30~ (1月20日、2月3日・17日、3月3日・17日)

場所:神奈川中小企業センタービル 5F 神奈川県異業種グループ連絡会議事務所

会費:500円(現物支給でも構いませんよ!) 気楽に、ぶらっとお出でくださいますよう!!

かながわ異グ連の会員グループやプロジェクトの状況

オールディーズ・シニア・クラブ

小林BC

現在、横浜市は20年後の2025年を想定した長期ビジョン策定に着手しているそうです。その結果が楽しみですが、今の生活ぶりがどうなるのでしょうか。ということで、市会議員でもある仁田会員が統計的手法で、「横浜市のくらし」について12月9日(金)の定例会で講演しました。興味深いことが多々あり、さすが横浜と再認識したと思います。その一端を紹介し、あわせて平成18年度のクラブ活動との接点も考えたいと思います。

市民の関心事は2002年なかば過ぎから、今まで第1位であった「高齢者施設」を抜き第1位「防犯対策」、第

- 2位「交通事故」だそうです。
- 1) 犯罪に遭う確率：①窃盗に遭う確率は58人に1人（横浜市が全国で一番安全な都市）
②家庭も最も安全な都市だが、治安の悪化が加速しており、増加率は8位（劇的に悪化している都市：北九州市、名古屋市、神戸市）
 - 2) 交通事故で怪我する確率：①1969年の交通戦争で車道と歩道を区分したが、現在はバリアフリーの障害になっている。自動車台数の増加に比例して、事故は増加している。
②横浜市の安全率は3位。70歳で交通事故で死傷する確率12.9%
 - 3) 消費生活から見る横浜らしさ：①外食派：中華料理1位、洋食2位（1位はさいたま市）、寿司2位。
②ファッション：洋服1位、履物1位。③理美容：香水・くし・歯磨き2位。
④外国語月謝：49都市ランキング1位。⑤新聞：2位。
⑥アルコール類：ワイン1位、ウィスキー2位（1位福島市）、ビール20位（1位広島市）、清酒25位。
⑦食べ物：シューマイ1位、餃子29位（1位宇都宮市）、スパゲティ2位。キャベツ2位（1位神戸市）、レタス3位（1位千葉市）。
 - 4) 高齢者の力：横浜市は既に「高齢社会」、急速に高齢化している（全国を上回る）。
①高齢者比率7%⇒16%にゆくスピードが横浜市16年（全国24年）と速い。
②2012年 超高齢化社会（21%比率）に突入するといわれる。
③2005年 働き手100人に対し、高齢者23人（横浜市）。
④購買力は30～40代のレベル。個人消費は30代並み。
⑤ボランティア人口は5人に1人。
 - 4) 当クラブの新年度活動の新展開：
横浜の魅力と活性化を高めるべく、高齢者のパワーを発揮したい。平成17年12月に「イベント・ミニクラブ」を新設し、各種団体との協力も含め、積極的にイベント活動を展開します。

第2回国際異業種交流会議

岡田めぐみ

明けましておめでとうございます。本年も宜しく願いいたします。まずは、昨年12月17日（土）、国際交流会（クリスマスパーティー）報告です。楽しい風船ゲームや一気飲み罰ゲーム、会員シェフさんによる豪華なお料理と、豊富なお酒。そして、何がくるのかわからないクリスマスプレゼント。参加者51名が、おなかも心もいっぱい満足な時間（とき）を過ごしました。
お手伝いをいただきました、会員のみな様に感謝いたします。

次回、第3回・国際交流パーティーのご案内です。中国の旧正月を水餃子でお祝いしませんか？中国人講師が、餃子の皮の作り方からご指導いたします。自慢料理になること、間違いないです！！

日時：2006年1月28日（土）
場所：横浜市中区真砂町4-43 木下商事ビル8F横浜留学センター
時間：18：00～ 参加費：3000円（飲食込み）
問合せ：ycrc@ies-world.com 担当岡田めぐみ

シフト21

有村BC

「シフト21」は経営変革を目指す企業と人の交流を図るグループで、業種・業態を問わない幅広い交流を目的として、原則第二火曜日に定例会を開催しています。本年も多くのお出合いの場をご提供できるよう心がけてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

さて、1月定例会は1月10日（火）午後6時半から神奈川県民センターで行いました。今月は「元気ありあり！金なし！コネ少し！～福祉用具の開発物語～」のテーマで、福祉用具機器研究開発の会代表の原田太郎様にお話をいただきました。シフト21では皆様の参加を歓迎しております。
問合せ：有村 hda00467@nifty.ne.jp

三浦海洋深層水を楽しむ会

八幡敬和

海洋深層水セミナー沖縄大会の様子を中島博士から紹介があり、甕島海洋深層水協議会に招かれた草間会員からも説明報告があった。来年度のNPO日本海洋深層水協会活動予定の中で全国フォーラムを三浦で開催したいことで協力要請があり、夏には佐渡、10月に八雲町（北海道）でのセミナーは決まっているとの事。さらに中島博士は来年2月から韓国の京東大学海洋深層水学部教授に就任、年末には台湾政府から海洋深層水取水に関して指導を求められていることから、日韓台三国間での連携のネットワークによって海洋深層水の利用を深めることの構想を伺った。

その後、参加者から酵母に使われる深層水とマグロの加工に使われる深層水の違い、野菜はどのようなか蒞蓄が紹介された。また会長からは豆乳から作ったプリン提供が有り、試食の中から議論が百出し、予定の3時間では足りない感じで散会した。

日韓ビジネス協議会

高橋BC

今年は昨年開催された神奈川県—韓国・京畿道との「国際異業種交流会議」協定書に基づき国際交流を活発化して、事業協力を促進する予定です。皆様のご参加を期待しております。

◇新年第一回（第60回）定例ミーティング

日時：1月26日(木)15:15～17:00 定例会 17:15～18:15懇親会

場所：神奈川中小企業センタービル 5階会議室

内容：日本企業紹介（南西建設株）害虫除去・樹木保護バンド、小型生ゴミ処理機等・・・鈴木俊英社長
韓国開成工業団地について・・・横浜大韓民国総領事館領事・姜 明逸氏
韓国情報、韓国貿易協会の今後の予定・・・(財)韓国貿易協会支部長・金 在淑氏
研究発表「電界効果発電（電子発電）」・・・(株)アトム技研代表取締役・西村 勲氏

問い合わせ、申し込み：事務局・高橋導徳 TEL：045-311-0094 MAIL：mtakahas@tb3.so-net.ne.jp

◇第59回の報告：12月14日(水)・・・忘年会もかねて盛大でした。

- ・韓国企業紹介／Z I P O T I N C . J A P A N 電子カタログと電子書籍など・・・支社長 朴権哲氏
- ・2005国際異業種交流シンポジウム・台湾／台中の報告・・・事務局・高橋導徳
- ・K O R E A I T ビジネス商談会2005の報告・・・韓国中小企業振興公団・日本事務所 朴魯鍊氏
- ・神奈川県—韓国・京畿道「国際異業種交流会議」の報告・・・会長 瀧澤 清氏
- ・講演：「新会社法」について・・・西新宿法務会計事務所代表 司法書士 中谷 智明氏

まんでんプロジェクト、JASPA関係

千田BC(JASPA 社長)

1、まんでんプロジェクト会員の受発注取引が伸びています。

昨年6月から始まり、12月末までの6ヶ月間の実績は、総受注件数120件、総受注額約3500万円、製造した部品点数（航空宇宙、一般合わせて）約1000点であった。今年はさらに増加する見込みである。特に航空機関係の増加が見込まれる。

2、まんでんプロジェクトの対外関係で次ぎの様な進展があった。

- ① (社) 航空宇宙工業会の市場参入検討グループの臨時分科会にまんでんグループが招聘され意見交換を行った。中小企業が新規参入できる新たな分野があるという示唆が ANA, 米国企業から提案された。また同社団からは正規会員にならないかという勧奨を受けており現在検討中である。
- ② (社) 日本ニュービジネス協議会（経済産業省を主管とする企業連携組織で、大企業、中小企業合わせて500社が会員）にまんでんプロジェクトを代表して (株) 山之内製作所が会員として参加をした。
- ③ e-連携フォーラム（2005年10月に発足した「e-連携新事業創出 中小企業経営者団体フォーラム」）にまんでんプロジェクトを代表して (株) JASPA が会員として参加した。

3、まんでん全体会合：1月19日13:00～中小企業センター6F

講演会のテーマは新規市場参入の可能性に関し ANA から、および話題の「はやぶさプロジェクト」について JAXA から紹介して頂く。

4、まんでんニュースレターを1月10日に創刊した。 今後定期的に発行の予定。会員および支援して下さる JAXA や各種団体にも郵送配付する。内容は、会員ニュース、助成金、受発注、JAXA ニュース、海外ニュース、異グ連関係ニュース、イベント情報など。まんでん HP にも掲載の予定である。

アルメニアプロジェクト（アルメニア人材育成研修終了）御礼！！

加藤文男BC

JICA 横浜センターから委託を受けて進めていたアルメニア貿易経済開発省中小企業開発局のチーフスペシャリスト及び国立中小企業開発センターの支部長やスペシャリストの4名への人材育成研修が12月13日をもって2週間の本邦研修を終了した。研修は、中小企業振興を目的とした講義が中心で、一部横浜市内や山梨県の企業視察を取り入れた。全体のプログラムは、異グ連内でプロジェクトチームメンバーを募り、講義も視察案内もこのメンバーで担当した。事前のヒアリング調査で講義内容に関する要望を聴き、その要望を満足するように準備したが、要望の内容とレベルが高く、講義内容が2週間の講義で説明できないほどの盛りだくさんになった。関係者の方々にはご多忙の中をご協力頂き、有難う御座いました。心から感謝申し上げます。

特別寄稿文

コミュニケーション異変

八幡 敬和

♪向こう横丁のタバコ屋の可愛い看板娘♪という唄を知らない人達が増えてきた。店に座っているのは婆さんばかりで、娘さんは非常に珍しい存在となった。そのせいでもあるまいが、店頭自販機の方がよく利用されている。価格競争の結果、大量仕入・大量販売のスーパーが席卷し、近隣から八百屋や鮮魚店果ては駄菓子屋まで消えてしまった。辛うじて残っている商店は店主・店員までサラリーマン化し、小ざれいになり、正札通りの販売でバーコードで勘定している。

このようにして対面販売方式は陰を潜め、無人化・POS化によって対話なく容易に購入することができるようになって利便性を訴えている。また国鉄末期には切符(指定券)の購入に際して駅員に叱られペコペコしていた時代があり、客は対面販売を嫌った。JRになったら、こんな光景はずっと減ったのは何故だろうか。閑話休題、このように非対面販売を支えてきた、乃至そのことによって助長・醸成された背景を考えると、

- ①口を利かなくて済む：口を利かたくない横着者にはこんな都合なことはなく、自分の買いたいものをカウンターに持ち込むか、コインを投入すれば叶えられる。最近はスイカ(西瓜ではなく Suica)のように当てるだけという方式も現れている。
- ②待たなくて済む：短時間で購入できるので、待つことを嫌う最近の若者には打ってつけである。
- ③買い手が誰だか不詳である：近所の店だと、日常の挨拶から始まって用件に入るの、急いでいる時は大変であり、特に自分の生活が覗かれているようでプライバシー擁護派には鬱陶しい。会話しないし、遠くの客だから誰だか店員は知らないし、知ろうとしない。
- ④店は勉強しない：専門店なのに新しい情報・知識の持ち合わせがない。客の方がTVや新聞・雑誌などで商品情報をキャッチしており、逆に客に教えられることがある。そのようなことから客は対面販売を必要としなくなる。

このようにして、スーパー、コンビニ、自販機さえあれば都会だけでなく田舎でも一日中対話なしに生活して行くことが可能である。正に隣は何をする人ぞ。全く口を利かないので誰だか、どんな人なのかさえ分からない。人恋しくないのか、TVとゲームに漫画本かあれば何日でも社会と隔絶し、自分の声すら聞いたことのない暮らしを送っている若者がいる。それが「閉じこもり」を生み、対話不能者に仕立てて行く。

外食産業の店頭では、「いらっしやいませ」「何に致しますか」「承知しました」「有難うございます」と相手の見境なく繰り返している。これではインコ・オーム並みの一方的なマニュアル通りのワンパターンである。ロボットの方が自由度の高い会話できる時代に哀れさを感じるのは私だけだろうか。

人間が猿と違う所は言葉を使う点であるが、学習権を放棄したかの如き進化論に逆行する世界を増幅していることは空恐ろしい気がする。一方で、自分で選び自分で決定したいという自己決定権は満足しているとは云うものの、自分の意思を言葉で表現する習慣を失い果たして意思伝達が円滑に進められるのだろうか。このような世情は、キレる人間・犯罪予備軍を造出するという社会問題にまで進展している、と云って過言ではあるまい。

「OL1200人調査」(日経産業新聞・昨年12月22日付)によれば、「個人を生かしながら組織を高めるために必要なスキル」について、部下・後輩に最も高めて貰いたいスキルは「コミュニケーション能力」で71%と圧倒的。コミュニケーション能力は自分が高めたいと思うスキルの1位でもあるが、特に部下・後輩との対話が不足している姿が窺える。

上司・先輩に最も高めて貰いたいのは「指導力・リーダーシップ」で78%、「判断力・決断力」が68%で続いており、自分より上の立場の人間とはコミュニケーションよりも的確な指示や実行力を求めているが、それでもコミュニケーション能力は第3位の62%となっている。

要は職場内でのコミュニケーションが大変悪化していることを示している。何しろ、隣同士でメールを使って昼食の相談をする職場は珍しい光景ではないようだ。

調査では、このような職場の組織力向上のため自分の欠けているスキルとしてコミュニケーション能力不足を補うために、「通常の業務以外で何をしたいか」との問いに対して、「社外の勉強会や異業種交流会に参加する」が67%でトップ。上司・先輩に求めることも同様に74%でトップであった。

便利であり、一見合理的と思われる会話不要の販売方式が招いたコミュニケーション能力不足を異業種交流などで解決したい(して欲しい)という声に、わが異グ連はどう応えるか、年頭に当たり皆で考えてみたい。

以上